



## サーバー OS のインストール

---

この章は、次の内容で構成されています。

- [OS のインストール方法](#) (1 ページ)
- [仮想 KVM コンソール](#) (1 ページ)
- [PXE インストールサーバ](#) (3 ページ)
- [USB ポートからのオペレーティングシステムの起動](#) (5 ページ)

### OS のインストール方法

C シリーズ サーバは、複数のオペレーティングシステムをサポートしています。インストールされている OS に関係なく、次のいずれかのツールを使用してサーバにインストールできます。

- KVM コンソール
- PXE インストールサーバ

Cisco UCS サーバ構成ユーティリティに関する詳細情報については、『[Cisco UCS サーバ構成ユーティリティ ユーザー ガイド](#)』を参照してください。

### 仮想 KVM コンソール

vKVM コンソールは Cisco IMC からアクセス可能なインターフェイスであり、サーバへのキーボード、ビデオ、マウス (vKVM) の直接接続をエミュレートします。vKVM コンソールを使用すると、リモートの場所からサーバに接続できます。

Cisco KVM コンソールを使用する主な利点は次のとおりです。

- Cisco KVM コンソールは KVM、SOL、および vMedia への接続を提供しますが、Avocent KVM は KVM および vMedia への接続のみを提供します。
- KVM コンソールでは、vMedia 接続が KVM 起動マネージャで確立され、すべてのユーザーが使用できます。

- KVM コンソールには、ゲストからホストにテキストを貼り付ける際に、サポートされていない文字の高度な文字置換オプションが用意されています。
- KVM コンソールには、CIMC に vMedia マッピングを保存する機能があります。

サーバに物理的に接続された CD/DVD ドライブまたはフロッピー ドライブを使用する代わりに、vKVM コンソールは仮想メディアを使用します。これは、仮想 CD/DVD ドライブまたはフロッピー ドライブにマップされる実際のディスク ドライブまたはディスク イメージファイルです。次のいずれでも仮想ドライブにマップできます。

- コンピュータ上の CD/DVD またはフロッピー ドライブ
- コンピュータ上のディスク イメージファイル (ISO または IMG ファイル)
- コンピュータ上の USB フラッシュ ドライブ
- ネットワーク上の CD/DVD またはフロッピー ドライブ
- ネットワーク上のディスク イメージファイル (ISO または IMG ファイル)
- ネットワーク上の USB フラッシュ ドライブ

vKVM コンソールを使用してサーバに OS をインストールできます。

## KVM コンソールを使用した OS のインストール



- (注) この手順では、基本的なインストール手順についてのみ説明します。Linux、VMware、および Windows のインストールの詳細なガイドについては、次の URL を参照してください。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/ps10493/products\\_installation\\_and\\_configuration\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps10493/products_installation_and_configuration_guides_list.html)

### 始める前に

- OS インストール ディスクまたはディスク イメージファイルを見つけます。
- OS をインストールするには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

### 手順

- ステップ 1** OS インストール ディスクを CD/DVD ドライブにロードするか、ディスク イメージ ファイルをコンピュータにコピーします。
- ステップ 2** Cisco IMC が開いていない場合は、ログインします。
- ステップ 3** [ナビゲーション (Navigation) ]ペインの[コンピューティング (Compute) ]メニューをクリックします。
- ステップ 4** [コンピューティング (Compute) ]メニューでサーバを選択します。

**ステップ 5** 作業ウィンドウで [リモート管理 (Remote Management)] タブをクリックします。

**ステップ 6** [Remote Management] ペインで、[Virtual KVM] タブをクリックします。

**ステップ 7** [Actions] 領域で、[Launch KVM Console] をクリックします。

[KVM Console] が別ウィンドウで開きます。

**ステップ 8** KVM コンソールから、[VM] タブをクリックします。

**ステップ 9** [VM] タブで、次のいずれかの方法を使用して仮想メディアをマップします。

- OS インストールディスクが含まれている CD/DVD ドライブの [Mapped] チェックボックスをオンにします。
- [Add Image] をクリックし、OS インストールディスク イメージに移動してこれを選択します。[Open] をクリックしてディスク イメージをマウントし、マウントされたディスク イメージの [Mapped] チェックボックスをオンにします。

(注) OS のインストールプロセスの間は、[VM] タブを開いたままにしておく必要があります。このタブを閉じると、すべての仮想メディアのマップが解除されます。

**ステップ 10** サーバをリブートし、ブート デバイスとして仮想 CD/DVD ドライブを選択します。

サーバを再起動すると、仮想 CD/DVD ドライブからインストール プロセスが開始します。残りのインストールプロセスについては、インストールしている OS のインストール ガイドを参照してください。

---

### 次のタスク

OS のインストールが完了したら、LAN のブート 順を元の設定にリセットします。ソフトウェアの相互運用性とドライバの互換性を含め、常に OS ベンダ推奨の設定に従うようにします。ドライバの推奨事項とインストールについて詳しくは、こちらの Cisco UCS ハードウェア互換性リストに従ってください。

<https://ucshcltool.cloudapps.cisco.com/public/>

## PXE インストール サーバ

Preboot Execution Environment (PXE) インストール サーバを使用すると、クライアントはリモートの場所から OS をブートおよびインストールできます。この方法を使用するには、PXE 環境が設定されていて、VLAN (通常は専用のプロビジョニング VLAN) で使用できるようになっている必要があります。さらに、サーバがネットワークからブートするように設定されている必要があります。サーバは、ブートすると、PXE 要求をネットワーク経由で送信します。PXE インストールサーバは、この要求に応答確認し、サーバに OS をインストールするイベントのシーケンスを開始します。

PXE サーバは、インストール ディスク、ディスク イメージ、またはスクリプトを使用して、OS をインストールできます。また、独自のディスク イメージを使用して、OS、追加コンポーネント、またはアプリケーションをインストールすることもできます。



(注) PXE インストールは、多数のサーバに OS をインストールする場合に効率のよい方法です。ただし、この方法を使用するには PXE 環境をセットアップする必要があることを考えると、他のインストール方法を使用する方が簡単な場合があります。

## PXE インストール サーバを使用した OS のインストール

### 始める前に

- VLAN 経由でサーバに到達できることを確認します。
- OS をインストールするには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

### 手順

**ステップ 1** PXE のブート順を最初に設定します。

**ステップ 2** サーバをリブートします。

VLAN で PXE インストール サーバを使用できる場合は、サーバが再起動するとインストールプロセスが開始します。通常、PXE インストールは自動化されており、追加のユーザ入力が必要としません。残りのインストールプロセスについては、インストールしている OS のインストール ガイドを参照してください。

### 次のタスク

OS のインストールが完了したら、LAN のブート順を元の設定にリセットします。ソフトウェアの相互運用性とドライバの互換性を含め、常に OS ベンダ推奨の設定に従うようにします。ドライバの推奨事項とインストールについては、こちらの Cisco UCS ハードウェア互換性リストに従ってください。

<https://ucshcltool.cloudapps.cisco.com/public/>

## USB ポートからのオペレーティング システムの起動

すべての Cisco UCS C シリーズ サーバでは、サーバ上の任意の USB ポートからオペレーティングシステムを起動できます。ただし、USB ポートから OS を起動する前に、いくつかのガイドラインを考慮する必要があります。

- ブート順序の設定を保持するために、内部 USB ポートを使って OS を起動することをお勧めします。
- USB ポートから OS を起動する前に、そのポートを有効にしておく必要があります。

デフォルトでは、USB ポートは無効になっています。USB ポートが無効化している場合、そこから OS を起動する前に有効にする必要があります。無効化された USB ポートを有効にする方法については、サーバ固有のインストールおよびサービス ガイドにある『内部 USB ポートの有効化または無効化』のトピックを参照してください。次のリンクを利用できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps10493/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps10493/prod_installation_guides_list.html)

- USB ポートから OS を起動した後、その USB ソースからサーバが毎回ブートするよう、下位レベルのブート順序を設定する必要があります。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。